

【オピニオン】★「観光」を県の主要な産業へ 島根県知事・溝口善兵衛

○縁結びの神様、大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）をお祭りする出雲大社は、今年、60年ぶりとなる大遷宮を迎えた。今年5月には、御本殿が修造中の仮のお住まい「御仮殿（おかりでん）」から、5年の歳月をかけて修造された御本殿にお還（かえ）りになった。現在、全国から多くの観光客が参拝に訪れていただいている。



○島根県は、交通の便が悪い、認知度が低いなど、全国的に見てこれまで観光客が多い方の県ではなかった。しかしながら、2010年度（平成22年度）から始めた「神々の国しまねプロジェクト」事業や、出雲大社の大遷宮などにより、島根の観光面における認知度は徐々に上がってきている。

○昨年は古事記が編纂（さん）されて1300年の節目にあたることから、出雲大社に隣接する古代出雲歴史博物館周辺で「神話博しまね」を開催し、目標入場者数40万人を大きく上回る約70万人の方々においでいただいた。

○旅行雑誌「地球の歩き方」が、今年4月から5月にかけて調査された『今年の夏休みにいきたい旅行先』では、「出雲・大田・石見銀山」が、東京ディズニーランドや富士山を抜き第1位となり、『いきたい都道府県』でも、昨年は20位以下だったのが第6位となった。今年4月から6月までの観光入込客数は、前年同期と比較して3割以上増加し、その後も勢いは続いている。

○日本銀行松江支店は「平成の大遷宮の経済波及効果」を発表され、2013年の観光需要の増加による県内への経済波及効果は300億円弱に達すると予測された。これは、過去10年間のNHK大河ドラマの舞台となった各県における経済波及効果の平均（約200億円）を大きく上回る規模、とされている。

○島根にお越しいただいている観光客は、最近では、特に若い女性が多い。島根には、出雲大社など「ご縁」に関係する神社やパワースポットとなっている神社が多いことによるところが大きいと見られる。

○今年3月、県外からの女性観光客にアンケート調査を行ったところ、首都圏からの来訪が多いことがわかった。こうしたことから島根県では、『運は一瞬、縁は一生』をキャッチコピーに、ターゲットを首都圏の20代から40代の女性とする、「ご縁の国しまね」キャンペーンをスタートさせた。

○さらに県内外の幅広い層に対して、日本の古き歴史・文化への関心を高め、同時に「神々の国」島根にも興味を持っていただくため、古代文化に関連の深い、奈良県・三重県・宮崎県と連携して「古代歴史文化賞」を創設した。最近発行された書籍の中か

ら、学術的要素に加え、一般の方にも分かりやすく書かれた5作品を選定し、先月発表した。11月には東京で、受賞者による講演などを行うこととしている。

○島根県は日本海に面した東西に長い県である。出雲大社は東部に位置し、西部は世界遺産「石見銀山」があり、また神楽が盛んな地でもある。そして離島である隠岐は、日本で6番目の世界認定となる「隠岐世界ジオパーク」として今年9月9日登録された。島根県は、古くから受け継がれた歴史・文化、豊かな自然と食材など、豊富な観光資源に満ちている。

○観光は一次産業を始め、多くの業種と関連する産業である。県民一人ひとりが「おもてなし」の心を持ち、現在の観光客の増加を一過性のもので終わらせないよう、行政と民間が一緒になって島根の観光振興に取り組んでいきたいと考えている。

(2013年10月7日)

溝口 善兵衛 (みぞぐち・ぜんべえ) 氏のプロフィール

1946年島根県生まれ。東大経済学部卒業後、大蔵省(現財務省)へ。同省官房長、財務省国際局長、同省財務官などを経て、2007年4月、島根県知事に初当選し、現在2期目。